



金岡 克己

インテック
取締役相談役



昭和53年に大学を卒業し、大手電機メーカーで人工衛星の構造解析に携わっていた。その後、インテック創業者金岡幸二の婿養子となり、米メリーランド大学のコンピュータサイエンス大学院に留学した。前職の間に、必要なGRE、TOEFLの試験を受け、大学の恩師に推薦状をもらい、入学にこぎ着けた。

つてもなく、単身ワシントンD.C.のホテルに宿泊。自力でレンタカーを借り、大学に行き、アパート探しをした。

指導教官が決まり、最初の面接でコンピュータサイエンスの知識を問われた。工学部精密機械工学科出身の私の知らないことばかり。ついには、GREの点数を聞かれ、アドミッションレター（入学許可書）を見せろと言われる始末。

正直、どうなることかと思った。しかし不思議なもので、途中、妻子を呼び寄せながら、何とか修士号を得るに至った。

今思い返しても、日本との違いは鮮明である。大手銀行で口座を作ろうとして、2万ドルの預金を要求され断念したこと、日本の自動

車保険の対人賠償が無制限と言ったら、口をあぐりされたこと、電話料金が何段階にも分かれていたことなど。

笑い話とも言えない出来事の一つ。深夜、大学のトイレを使おうとして、清掃中の女性から「レディの前で何するつもり」と怒鳴り散らされ追い出された。今でも、エレベータの乗り降りなど、女性がいるとどうしようと思ってしまう。

若いうちの苦労は買ってでもしろ、といわれる。30歳前後で妻子を抱え、見知らぬ土地であたふたとした経験が、最後には開き直る神経を培い、東京電力との合併会社、アット東京初代社長就任に活かされたと感ずる。また、30年以上前にコンピュータサイエンスの基礎を勉強したことが、AIなど最新技術の動向を理解する上で助けになっている。

若いうちの苦労



義父との家族旅行、カナダにて